

第 1 学 年 音 楽 科 学 習 指 導 案

1 年 1 組 指 導 者 石 村 香 織

題 材 ようすをおもいうかべてうたおう「きらきらぼし」

※ ◇◇◇◇は P.38 と対応する。

特にめざす姿を太字で表している。

1 本題材でめざす子どもの姿

- ◇ 子どもが、自分なりの「きらきらぼし」の表現の工夫を、歌ったり楽器で音を出したりしながら伝えている
- ◇ 子どもが、思いをもって、自分なりの「きらきらぼし」の表現を工夫している
- ◇ 子どもが、自分の思い描く「きらきらぼし」の表現に近づいたと感じている
- ◇ 子どもが、仲間とかかわり合う中で見出した、歌詞や楽曲の気分に合った歌唱・演奏の仕方を自分の表現に生かしている

2 題材について

本学級の子どもたちは、音楽に対する関心が高く、リズム遊びや音楽に合わせて歌ったり体を動かしたりするなどの学習を積み重ねてきた。その中で、フレーズや拍の流れを感じ取り、楽曲の気分に合った歌唱・演奏や身体表現の工夫をすることができるようになってきた。このような子どもたちが、楽曲の気分やよさについて感じ取ったことをもとに、仲間とかかわり合いながら自分なりの表現をつくり出していくことで、思いをもって豊かに表現することができるようになると考える。

本題材は、歌詞や楽曲の気分を感じ取り、情景を思い浮かべて楽曲のイメージをふくらませて、それにふさわしい歌い方や楽器の演奏の仕方を工夫する学習である。導入で「きらきらぼし」を聴き、場面の様子を思い浮かべて絵を描く。自分の描いた星の様子について伝え合い、夜空の星のきらきらしたイメージをふくらませて「自分なりの『きらきらぼし』を表現したい」という意欲をもつ。そして、身体表現を含めた歌唱・演奏の工夫をして、楽曲の気分に合う表現を自分なりにつくっていく。しかし、自分なりの表現は、直観的な感受にもとづく工夫になりがちである。音楽を形づくっている要素と結びつけた表現をつくっていくには、思いを受け止め合った仲間と表現を聴き合ったり、互いの表現を試したりしながら、音楽を形づくっている要素の働きのよさを感じる大切であると考える。

そこで、以下の支援により、本題材でめざす子どもの姿の実現を図りたい。

- ・ 題材の始めに、楽曲を聴いて思い浮かべた様子を絵に描き、想像したことを言葉を交えながら仲間と紹介し合う場を設定する。そうすることで、「きらきらぼし」の場面の様子をより豊かに想像することができるようにしたい。
- ・ 表現づくりの場面において、歌詞と拍の流れを記したイメージ楽譜を提示し、子どもがしている表現の工夫を書き込む。そうすることで、音楽を形づくっている要素をもとにした話し合いができるようにする。
- ・ 実際に歌ったり音を出したりしながら、自分なりの表現の工夫を仲間に伝えるように促す。そうすることで、その子どもの工夫したい内容や思いを互いに受け止め合うこと

ができるようにする。

- ・ 歌詞や楽曲の気分にあった歌い方や音の出し方をしている子どもの表現を、他の子どもにも模倣したり試したりするように促す。そうすることで、その子どものしている歌い方や音の出し方のよさに気づきやすいようにする。

3 目 標

- 場面の様子を思い浮かべながら、楽曲の気分合うように工夫して、歌ったり演奏したりすることができるようにする。
- 仲間と楽曲の気分にあった表現について話し合いながら、自分なりの歌唱・演奏の仕方を工夫する楽しさを味わうことができるようにする。

4 評価規準

関心・意欲・態度(関)	感受の工夫(感)	技能・表現(技)	鑑賞(鑑)
○歌詞や楽曲の気分に関心をもち、場面の様子を思い浮かべながら表現しようとしている。	○歌詞や楽曲の気分を感じ取って、場面の様子を想像しながら表現を工夫している。	○楽曲の気分を生かして、表情豊かに歌ったり、音の出し方に気を付けて演奏したりしている。	○場面の様子を想像しながら、楽曲の気分を感じ取って聴いている。

5 指導計画 16M(5時間)

が本時

第1次 「きらきらぼし」の様子を思い浮かべてイメージをもつ 3M(1時間)

学習活動	学習内容
□「きらきらぼし」を聴いて、思い浮かべた様子を絵や言葉で表す	<ul style="list-style-type: none"> ・「きらきらぼし」への関心(関) ・楽曲の気分の感受(鑑) <p>・今日は、「きらきらぼし」を聴くのだね。優しくてきれいな曲だな。「きらきらぼし」を聴いて、思い浮かべた様子を絵にするのだね。ぼくは、たくさんの星がきらきらしているような様子を思い浮かべたよ。私は、星さんたちが仲良くお話をしているなと思って絵を描いたよ。△さんの絵には、星が1つだけ描いてあるよ。一番星がきらきら光っているところなのだね。みんなの絵を並べて見ると、本物の夜空みたいで、きれいだね。こんな星の世界を素敵に歌えるようになりたいな。次の時間が楽しみだな。(3M)</p>

第2次 自分の思い描く「きらきらぼし」に近づくために工夫をしながら表現する 10M(3時間)

学習活動	学習内容
□様子を思い浮かべて歌い方を工夫する①	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思い描く表現に近づけようとする意欲(関) ・自分なりの表現の工夫(感) ・自分の思い描く表現に近づく歌唱・演奏(技) <p>・どうやったら、たくさんの星が明るく光っているような感じになるかな。1番の歌い方を考えるのだね。手をひらひらして、星がきらきらしている感じを表したいな。ゆっくりな曲だから体をゆっくりと横にゆらしながら歌うよ。「お空の星よ」は、星さんとお話をしているみたいに、友達と向かい合って歌うよ。星は夜に</p>

出るから、静かな感じで歌おう。でも、声を小さくし過ぎると、聴こえなくなってしまうね。■くんは、「きらきら光るお空の星よ」のところを上手に歌えているね。どう歌っているのかな。そうか、優しく歌うと、夜の静かな感じが伝わるのだね。2番の歌い方も考えたいな。楽しみだね。(3M)

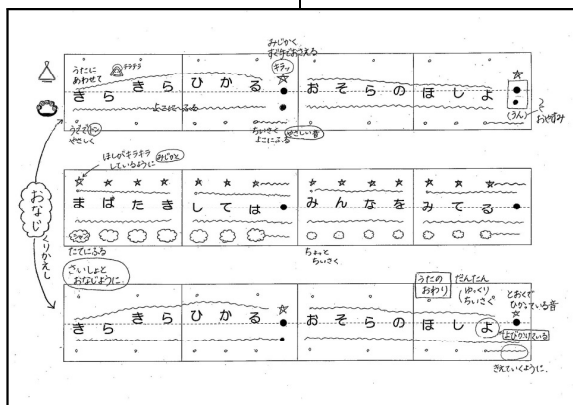
□様子を思い浮かべて歌い方を工夫する②

・2番の歌い方を工夫するのだね。「みんなの歌が届くといいな」のところ、歌が届けるみたいに両手を前に出しながら歌ったらどうかな。●さんは、「届くといいな」のところを少しゆっくりにしているね。私もやってみよう。ゆっくりにすると曲の感じに合うね。歌い方を工夫すると、ずいぶん素敵な「きらきらぼし」になってきたね。でも、もっと素敵な星空に近づきたいな。前にやってみたくて、楽器も入れて歌ったらどうかな。すずとトライアングルを使っていいのだね。自分の歌い方に合うように音を鳴らすのだね。自分の歌い方に合うのはどんな音かな。ぼくは、星がきらっと光るような音を入れたいな。ちょっと出してみよう。自分が出す音のイメージを楽譜に書くのだね。よし、書けた。歌に合わせてやってみるよ。もっとたくさんやってみよう。次の時間が楽しみだね。(4M)

□様子を思い浮かべて表現を工夫する

・自分の歌い方に合うような音を出しながら歌うのだね。ぼくは、歌の途中で星がきらっと光る音を出したよ。□くんは、歌のお休みのところで音を出しているのだね。お休みのところで音を出すと、歌によく合う感じがするのだね。それに、□くんは、トライアングルを出した後に手で押さえて音を止めていたよ。本当にきら

らっと光っているみたいな音でいいなと思ったよ。◇さんは、星さんたちがお話をしているように歌うから、それに合うように、すずを小さく振って優しい音を出すのだね。優しい音って、こんな音なのだね。優しい音が◇さんの歌い方に、よく合っている気がするよ。黒板がみんなの工夫でいっぱいになったよ。とっても素敵な「きらきらぼし」になってきてうれしいな。次の時間も素敵に歌いたいな。(3M)



第3次 見つけた表現の工夫を生かして「きらきらぼし」を歌う 3M (1時間)

□仲間で見つけた表現の工夫で「きらきらぼし」を歌う

・これまでに見つけてきた工夫が表れるように「きらきらぼし」を歌うよ。自分の歌い方に合うように音を出しながら歌うと、素敵な「きらきらぼし」になってきたね。友達と一緒にやってみて、曲に合う歌い方や音の出し方があるのがわかったね。どれも、ぼくたちの作った星空のイメージにぴったり合うね。素敵な「きらきらぼし」になってよかったね。またやってみよう。(3M)

6 本時案

音楽室

(1) ねらい 自分の歌い方に合った、すずやトライアングルの音の出し方について話し合い、イメージに合った表現を工夫することができるようにする。

(2) 学習過程

① 自分の歌い方に合った音を出しながら歌う (10分)

学習内容 ・自分なりの表現の工夫 (感)

- ・自分の歌い方に合うような音を出しながら歌うのだね。
 - ・まず、みんなでやってみるのだね。
- 星さんとお話をしているように、歌いながら音を出せたよ。

② 自分の歌い方に合う音の出し方について話し合う (25分)

学習内容 ・仲間が見つけた工夫への興味 (関)
・イメージに近づく工夫 (感)
・自分の歌い方に合った表現 (技)

- ぼくは、歌の途中で星がきらっと光る音を出したよ。
- ・□くんが言っているのはどんな音かな。



□くんはトライアングルで音を出していますね。どのように音を出したか、みんなにやって見せてくれますか。

- ・□くんは、歌のお休みのところで音を出しているのだね。お休みのところで音を出すと、歌によく合う感じがするね。
 - ・私は、歌の言葉に合わせて音を出していたのだけれど、□くんみたいな出し方もあるのだね。
 - ・それに、□くんは、トライアングルを出した後に手で押さえて音を止めていたよ。本当にきらっと光っているみたいな音で、いいなと思ったよ。
- ◇私は、星さんたちがお話をしているように歌うから、それに合うように、こうやってすずを小さく振って優しい音を出すよ。
- ・ああやったら、優しい音になるのかな。私もやってみたいな。
 - ・みんなで音の出し方をまねしてみるのだね。
 - ・本当だね。◇さんみたいに横に小さく振ると、本当に星に話しかけているみたいだね。優しい音って、こんな音なのだね。
 - ・優しい音が◇さんの歌い方に、よく合っている気がするよ。
- 私も星さんとお話をしているように音を出していたけど、◇さんみたいな音もいいなと思ったよ。私は、たくさんお話をしているようにしたいから、長く振って音を出して歌ってみよう。

③ 本時を振り返り、次時への見通しをもつ (10分)

学習内容 ・次時への意欲 (関)

- ・友達の音を聴いて、いいなと思う音をたくさん見つけたよ。黒板がみんなの工夫でいっぱいになったよ。
- ・最後に、もう一度みんなで歌ってみるのだね。とっても素敵な「きらきらぼし」になってきたよ。うれしいな。
- ・次の時間も素敵に歌いたいな。楽しみだな。

支援

- 音を出すタイミングや音の出し方を工夫している子どもにも、実際に音を出したり、前でやって見せたりしながら仲間に伝えるように促す。そうすることで、工夫したい内容や思いが仲間に伝わりやすくなる。
- 黒板に掲示したイメージ楽譜に、子どもがしている表現の工夫を書き込む。そうすることで、楽譜のどの部分をどのように工夫しているのかを、聴いている子どもが視覚的にわかりやすいようにする。
- 自分の歌い方に合うような音の出し方にこだわって表現している子どもを取り上げ、他の子どもにも、その表現を模倣したり試したりするように促す。そうすることで、その子どもの表現の工夫のよさに気付きやすくなる。